

令和4年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 三木市立別所認定こども園

観点	②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員会議も集まることが難しく、紙面やグループラインを使用するなどして工夫してきた。しかし、お互いが話をする機会が減り、情報が浸透しなかったり、教師同士の関係も希薄になっていったりした。 ○ さらに職員の入替えがあり、今までのことを知っている人と知らない人との間で情報と感覚の違いの差が生まれている。 ○ クラス単位では、子ども同士、教師同士も親しくなって安心感があるが、他のクラスとの交流がもちにくいため、顔や名前がわからない、どんな人かわからないという状況がある。 ○ 今年度は、異年齢での交流をもち、園児も教師もお互いを知る機会を増やしている。 ○ 職員間での話し合いを工夫し、情報共有に努めている。
目標	お互いを知って、園児も教師もみんな仲良く！楽しく！
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各クラス単位から学年、乳児、幼児、全園児と少しずつ枠を広げながら関わられる機会をつくっていく。 ○ にこにこタイム…4歳児と5歳児が少人数で0～3歳児クラスに行ってお手伝いをする。 ○ わくわくタイム…3～5歳児がクラスを解体して一緒に遊ぶ時間を設ける。 ○ 職員会議の持ち方を工夫して、情報共有を図る。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異年齢交流を行ったことで、年上の子が年下の子のいたわりの気持ちや大きい子へのあこがれの気持ちなど目に見える形で表れてきた。そのことに対して、保育教諭も具体的に「すごいね」「ありがとう」「頑張ったね」など言葉にし、自己肯定感を高めることが出来た。 ○ 職員会議や職員同士の話し合いなどを多く持つことによって、子ども一人ひとりの成長を職員で共通理解し、園全体で支援していく事につながった。 ○ 保護者アンケートで、「いろんな先生から声がかかり、うれしい」とあったのも、大きな成果といえる。
評価	<p>「相互理解」というコミュニケーションの基本を大切にしながら、保育の実践に取り組んでいる。特に、子どもたちには「にこにこタイム」や「わくわくタイム」などの仕組みを工夫し、積極的に年長児と年少児の関わり合いの時間を創出し、子どもたちの成長に寄与している。また、職員からの子どもたちへの褒める言葉や保護者への挨拶など「プラスの言葉かけ」が常に意識され、「みんな仲良く」の具現化に向け、着実に進んでいる。</p>